

令和8年3月25日
管理課業務担当

第36回芝浦食肉衛生検査所調査研究発表会を開催しました

3月6日（金曜日）、芝浦食肉衛生検査所は、「第36回芝浦食肉衛生検査所調査研究発表会」を開催しました。当所は、食肉の安全の確保を図るため、日々の検査業務から得られる知見を基に、牛や豚の疾病診断や食肉検査方法に関する様々な調査研究を行っており、毎年度末にその成果を発表しています。

今年度も集合形式及び Web 配信の併用開催とし、都関係機関や食肉市場内関係団体から計32名（うちWeb参加17名）の参加がありました。

今年度の発表は、「抗菌性物質検査用平板培地作製方法の改良について～Quick Luteにおける迅速・簡便・安定的な培地づくりの試み～」、「検査用ナイフの研磨方法に関する検討及び新人教育用資料の作成（継続）」、「牛輸送時の車両構造及び取扱方法に関する実態調査」、「3D撮影技術を利用した教育資材の検討」、「DXツールを活用した豚の枝肉切除マニュアルの作成」の5題の口頭発表と「LC-MS/MS8060によるアンピシリン、ベンジルペニシリン及びテトラサイクリン系抗生物質試験法（豚筋肉、牛筋肉）の妥当性評価について」及び「牛伝染性リンパ腫の疫学解析～過去3年分のまとめ～」の2題の誌上発表を行いました。あわせて、昨年7月にアメリカで開催された第40回世界獣医師大会で発表を行った職員による特別講演を行いました。

発表後、健康安全研究センターの助言者の先生方から、「輸送車について問題点の指摘にとどまらず、現場の努力や良好事例を丁寧に拾い上げ、普及啓発につなげており、評価できる。」、「感覚に依存しがちな検査刀の研磨方法について、具体的な手技・対策に取り組んでいる。」等の励みとなる講評や「大学レベルのVR教材が実現しつつあるなか、3D撮影技術を活用していけば、と畜場の現場でも実務に落とし込める。」等の具体的な助言をいただきました。

当所は、今後も食肉の衛生検査を確実に実施するとともに、調査研究の成果を事業者や消費者に情報発信し、公衆衛生の向上に一層寄与していきます。